

1 大学の教育研究上の目的に関すること

1-1 大学の目的

秋田公立美術大学は、広く知識を授け、深く専門の芸術を教授研究することによって、豊かな創造性とグローバルな視野を持った人材を育成するとともに、芸術文化の発展と地域社会に貢献することを目的とする。

1-2 基本理念

秋田公立美術大学においては、従来の大学のように学問自体の研究・発展だけを目的とするのではなく、公立大学として秋田市の芸術・文化をいかしたまちづくりの中核の役割を担うため、大学の中だけで完結するのではなく、地方都市である秋田を構成する一部分に自らを位置付け、秋田の芸術・文化の探求・創造も併せて指向する。同時に、美術・工芸・デザインを単なる芸術鑑賞の対象としてのみ扱うのではなく、広く社会に貢献できる一つ的手段として捉え、住みやすく人にやさしいまちづくりや新たな商品開発といった分野への支援機能も備えることが必要である。

このことから、秋田公立美術大学の基本理念を以下の4点とする。

- (1) 新しい芸術領域を創造し、挑戦する大学
- (2) 秋田の伝統・文化をいかし発展させる大学
- (3) 秋田から世界へ発信するグローバル人材を育成する大学
- (4) まちづくりに貢献し、地域社会とともに歩む大学

1-3 学部の目的

新しい芸術表現を模索し発信する人材、新しいデザイン技術を習得して地域の活性化に寄与する人材、地域の「良さ」や「美しさ」を再発見する眼を持つ人材、多様な価値を交換・共有できる人材、地域の芸術創造を实践する計画を立案できる人材の育成を目的とする。

1-4 教育研究上の目的

基本理念に基づき、以下の事項を教育研究上の目的及び学生に修得させる能力とし、人材育成をおこなう。

- (1) 秋田に新しい種を蒔く芸術の創造
- (2) 土地の歴史文化に根ざした芸術の創造
- (3) 多様な価値の交換・共有
- (4) 地域の芸術創造を实践する計画の立案

1-5 各専攻の目的

(1) アーツ&ルーツ専攻

この専攻の目的は、絵画および彫刻形式の制作を主として対象とし、21世紀初頭において現代美術の作家に共有されている先端的な問題意識の作品表現にある。なかでも中心的に扱うのは、過去の歴史文化・遺産や、地域固有の資源といった文化的ルーツを掘り起こし、それらを現代の文脈において再構築した造形表現である。

その目的を実現するために、この専攻では日本画や彫刻の基礎実技に加えて、秋田や東北の歴史文化の古層を深く掘り下げて研究するルーツ探索の学びを通して、現代社会の本質や体系を見抜く眼を養う。そのことは、例えば現代において曖昧になっている人工物と自然物の境界を見抜くことにも繋がる。そして、その境界を独自の視点で再構築し、物の本質を露にするような作品を制作することにも繋がっていく。東北や秋田の歴史文化の学びを通じて、複雑に絡み合った現代の物事を解きほぐし、若い世代が持っている現代の視点で再構築していく作品の制作を行う。

(2) ビジュアルアーツ専攻

この専攻の目的は、西洋近代に登場した「純粹美術」という芸術理念にとらわれず、造形・映像等の様々な領域を対象とし、その表現課題を「表現者個人の内面」から「社会」へ、そして「物質」から「関係性」へと移行させながら拡張を続ける現代美術の新しい表現手法と思想を探求することである。

具体的には、次の三つの考え方を教育の根底に置く。第一は、近代美術において形成された「表現者個人の内面」の表出という価値にとらわれることなく、「社会」に対しても通じる表現となるよう「世俗的」「大衆的」に共有される情趣にも価値を認めることである。第二は、現代美術における課題が単一の表現メディアの範囲内では捉えきれない「表現の根拠」に立脚していることから、製作プロセスにおける多様な表現メディアの横断と技法修得の必要性を重視することである。第三は、多様化・多元化する現代文化の中で、個人としての自我が希薄化され、存在が相対化される人間自体に焦点を当て、他者との「関係性」の側面からその存在根拠を改めて探ることである。

(3) ものづくりデザイン専攻

この専攻の目的は、これからの時代が求める、「使用感の充足」という新しい価値を持った「ものづくり」である。対象とするのは、インテリア製品、家具、テーブルウェアから、装身具、置物に至るまでの、生活空間の中の様々な「もの」である。この「使用感の充足」とは、「もの」に本来備わるべき要素、すなわち人との親和性、使う時の安心感や機能性、そして「もの」それ自体としての審美性などから生じる価値である。これらは経済的合理性を優先する近代デザイン思想の下で、徐々に切り捨てられてきたものであるが、近年再び見直されてきている価値でもある。この専攻は、こうした価値を求める人間の根源的感性を基盤に据え、豊かな生活へと誘う「もの」の制作を行う。

(4) コミュニケーションデザイン専攻

この専攻の目的は、現代社会における企業・公共・地域等の間で相互に成立しているコミュニケーションに内在する今日的な課題に取り組むための思考と表現メディアを、グラフィックデザインの立場から研究し教育することにある。

具体的には、企業・公共・地域等のコミュニケーションにおける課題を、視覚情報の表現として捉え直すことによって、企業、公共、地域等の活動に一層の合理性や効率性を与える。そうした捉え直しを、視覚情報化の技術習得に止まることなく、課題発見・企画・調査・計画・提案・制作・フィードバックなど幅広い観点から行いながら、より適切かつ効果的な伝達（コミュニケーション）表現を創造するとともに、情報を伝達するメディアそのものをデザインする。

このほか、インターネットの浸透が増大させる個人間のコミュニケーションとそれらの総体がもたらす社会的変動から派生する新しい課題も視覚情報の表現対象として扱う。個人から発信される様々な情報のパラダイムを編集デザインの手法で組み替えることによって、現代社会における新しい「個人」像の形成に寄与する。具体的にはインターネットや紙媒体を主なメディアとし、社会のなかで複製され共有される視覚情報の表現を通して追及する。

(5) 景観デザイン専攻

この専攻の目的は、地方風土、地域文化に裏打ちされた人間の営為を総じて「景観」として捉え、これを持続させる活力あるまちづくり、社会基盤づくりを通して、次世代につながる新たな社会資産をデザインの視点から創出することである。具体的には、農村・都市を問わず、歴史文化の風情豊かな美しい街並みや、地域性豊かな農漁村風景などを保全し再構築するプロセスが課題となる。その際、その街並みや風景の構成要素全体を通底する自然観・生活観を基に、個々の要素をデザインすることが重要である。

1-6 大学院の目的

秋田公立美術大学大学院は、学部における教育成果を基盤に、多様化する現代芸術領域と複雑化する地域課題に対応しながら、複合的な教育・研究を通じて、一人ひとりの個性を尊重した専門性のさらなる深化を追求し、新たな芸術表現の創出やより本質を捉えた地域貢献を担うことができる高度な実践力と専門性を兼ね備えた人材を育成することで、現代芸術領域及び秋田市をはじめとする地域への貢献を果たしていくことを目的とする。

1-7 研究科の目的

複合芸術研究科は、現代芸術領域と地域における課題を対象とする教育・研究を通じて、テクノロジー等を活用した複合的芸術表現の探求、アート・マネジメントの手法を用いた課題解決、ソーシャル・デザインによる雇用の創出・まちづくり、さらには蓄積された現代芸術領域に関する研究成果の発信など、自らの表現能力を探求し続けながら、現代芸術における新領域の創造と、地域を深く捉えた課題の発見から課題解決手法の提案・実践を通じて社会に貢献する人材を育成することを目的とする。